

平和教育部会

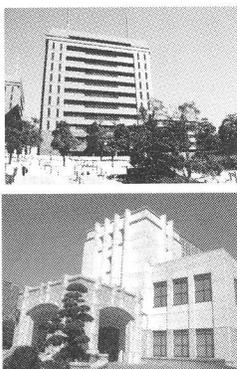
佐藤 康尚

フィールドワークの報告

平和教育部会では、部会内での学習と共にフィールドワーク（現地学習会）の名称で）に取り組んできました。その報告です。

一つ目は、防衛省・自衛隊の市ヶ谷地区見学（市ヶ谷台ツアー）です。ここは、午前・午後各2時間余の見学コースが組まれており、小中学生の「総合」や修学旅行でも多くの見学者があるようで、10月に私たちが見学した日も30名余の参加者で、一度は見ておく必要を感じました。

主な見学場所は、市ヶ谷記念館（左下写真）で、東京裁判の大法廷となった大



講堂などを移転・復元したものです。大法廷を想像すると、歴史的

臨場感”も味わえますが、展示の大半は、旧日本軍のもので、批判的に見学習る力が必要と感じました。

もう一つは、社会科部会のフィールドワーク「東京大空襲」に合流した見学会です。



衝撃的だったのは、上の写真です。この黒い線は、空襲による高温で化学変化した跡だとのこと。江東区内、半蔵門線「清澄白河」駅付近の寺院の墓所にあるもので、花崗岩の墓石が今も空襲の激しさを語っています。やはり必見です。

こうした空襲を今に語る痕跡は、石に刻まれたものでは、言問橋の石に残る焼け焦げた跡はよく訪れていましたが、墓

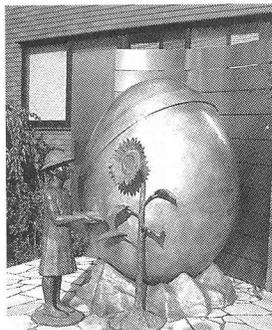
石はもつと衝撃的でした。都内にある「空襲被災樹木」リストが、東京大空襲・戦災資料センターで無料提供されています。66か所もあるので、地元のものを見つけて、学習教材化できるのではないのでしょうか。

三つ目は、東京教研特別企画「東京大空襲を学ぶバスツアー」です。原宿空襲や慶応大学の被災状況など今までにない学習ができました。

いずれも最後の学習場所は、戦災資料センターです。左の写真は、その玄関に台座する「世界の子どもの平和像」です。「ひびの入った卵とひまわりに水をやる少女」のこの像には、壊れそうな平和を人間の手で守り、明るい未来を築く願いが込められています。もつと知られていい高校生の取り組みです。

部会では、11月2日、「大久保・戸山・早稲田フィールドワーク」を予定しています。WAM・高麗博物館・戸山人骨発見現場をまわる見学会です。ぜひご参

加を！（詳しくは、都教組新聞で）



（練馬・関中）